

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道3号 <small>あしきたいずみ</small> 芦北出水道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：熊本県葦北郡芦北町花岡 <small>あしきたぐんあしきたまちはなおか</small> 至：鹿児島県出水市下知識町 <small>いずみししもちしきちょう</small>	延長	29.6km		
事業概要					
芦北出水道路は、高規格幹線道路「南九州西回り自動車道」の一部を形成し、災害時の代替路の確保や地域産業の活性化等の支援を目的とした事業である。					
H5年度事業化	H17, 18年度都市計画決定 (H一年度変更)	H11年度用地着手	H20年度工事着手		
全体事業費	約1,568億円	事業進捗率	39%	供用済延長	7.7km
計画交通量	19,300～25,900台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 2.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 711/1,519億円 事業費：638/1,433億円 維持管理費：73/86億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,734/2,466億円 走行時間短縮便益：1,354/1,825億円 走行経費減少便益：247/430億円 交通事故減少便益：133/211億円	基準年 平成28年	
感度分析の結果					
【事業全体】交通量：B/C=1.02～2.1（交通量±10%）【残事業】交通量：B/C=1.5～3.1（交通量±10%） 事業費：B/C=1.6～1.7（事業費±10%）事業費：B/C=2.2～2.7（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.5～1.7（事業期間±20%）事業期間：B/C=2.3～2.6（事業期間±20%）					
事業の効果等					
①広域交通ネットワークの形成 ・八代市～鹿児島市を結ぶ南九州西岸地域の沿線各都市間の所要時間短縮により九州南西部の地域経済の活性化、高速定時性を確保					
②災害に強いネットワークの構築 ・災害・事故発生時における国道3号や九州縦貫自動車道の代替機能確保					
③医療施設までのアクセス改善 ・第二次救急医療施設（熊本労災病院）への救急搬送時間短縮による救命率の向上					
④地域産業の支援 ・輸送時間の短縮による水産品の翌日売り圏域拡大等、地域産業の活性化に貢献					
⑤生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO <sub>2</sub> , NO <sub>2</sub> , SPM削減）					

関係する地方公共団体等の意見

出水市をはじめとする自治体（9市4町）で構成される南九州西回り自動車道建設促進期成会（会長：出水市長）から早期完成の要望を受けている。（平成28年11月）

県の意見：

（熊本県）今回、意見照会のありました一般国道3号芦北出水道路に関する国の「対応方針（原案）」案については、異存ありません。

本道路は九州南部の高速ネットワークを形成する高規格幹線道路「南九州西回り自動車道」の一部を担い、災害時の代替路の確保や地域産業の活性化等を図る重要な道路です。

また、水俣病により疲弊した水俣・芦北地域の振興を図るうえで重要な道路であり、昭和53年の閣議了解を踏まえ第六次にわたり県が策定している「水俣・芦北地域振興計画」の中においても、「南九州西回り自動車道」の整備促進を重要な施策として掲げています。

以上のことから、本県としては、一日も早い全線の完成供用を切望しており、今後とも、なお一層の整備推進をお願いします。

（鹿児島県）「対応方針（原案）」案の「継続」については、異存ありません。

当該道路は、九州縦貫自動車道等とともに広域的な高速交通ネットワークを形成し、九州の一体的浮揚に寄与するだけでなく、沿線地域の交流連携の強化、産業・観光の振興など、今後の地域の浮揚発展に大きく貢献することや、原子力災害を含む大規模災害発生時における沿線住民の迅速な避難や物資の緊急輸送などに大きな役割を担うことなどから、事業の継続をお願いするとともに、できる限り早期に整備完了していただきたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域（芦北町，津奈木町，水俣市，出水市）の人口は減少傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は熊本県・鹿児島県合計及び九州全体より多い。国道3号現道の交通量は横這い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成5年度に事業化、用地進捗率72%、事業進捗率39%（平成28年3月末時点）

平成27年度：芦北IC～津奈木IC間 延長7.7km（2/4）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

平成30年度：津奈木IC～水俣IC（仮称）間 延長5.6km（2/4）開通予定

施設の構造や工法の変更等

- ・法面変状・地滑り対策の追加 【約 26億円増】
- ・架設工法の変更 【約 17億円増】
- ・盛土材料の変更 【約 12億円増】
- ・盛土構造から橋梁構造への変更 【約28.4億円増】
- ・新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。